



みなもとのよりと

源頼朝 は、どんな人だったの

へいし 平氏をほろぼし、武士による政治を始めた、かまくら 鎌倉
ばくふ 幕府の初代 しょうぐん 将軍 だよ。

源頼朝は1147年に、清和源氏（清和天皇の系統の源氏）の源義朝の三男として生まれました。13歳のとき平治の乱（1159年）が起こり、父義朝に従って出陣しましたが、敗戦で平氏に捕らえられました。池禅尼（平清盛の継母）のおかげで命だけは助かり、14歳で伊豆の蛭ヶ小島（静岡県韮山町）に流されました。31歳のとき、北条時政の娘政子を妻にしました。

鎌倉を本拠地に、武士による政治を始めた

1180年、平氏をたおすために兵をあげましたが、石橋山（神奈川県小田原市）の戦いで敗れました。安房（千葉県）でふたたび兵をあげ、関東の武士を集めて、鎌倉を本拠地にしました。その後は、異母弟の範頼・義経を西国に派遣して、源義仲・平氏と戦わせながら、侍所・公文所（のちの政所）・問注所など、幕府の組織をつくっていきました。1185年に平氏がほろびた後、全国に、幕府が任命する守護・地頭をおきました。1189年に、奥州平泉の藤原氏をほろぼし、1192年には、朝廷から征夷大將軍に任命されました。1199年、馬から落ちたのが原因で、53歳で亡くなりました。

用心深く、うたぐり深い性格だった

頼朝は、軽々しいことは一言もいわないほど、用心深く、異常にうたぐり深かった、といわれています。これは、少年時代に肉親を失って、ひとりぼっちになり、まわりは敵ばかりの所で21年の間、他人を警戒しながら生活したことが、原因のようです。同じ源氏一門の佐竹氏・志田氏・源義仲などや、おじの源行家、弟の範頼・義経を、敵としてたおしていったのは、このような性格も、原因の一つだったようです。